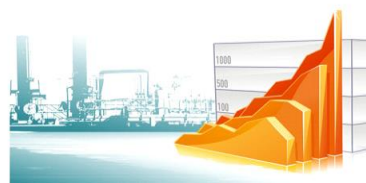


# ぎふ経済レポート



平成29年2月分  
岐阜県商工労働部

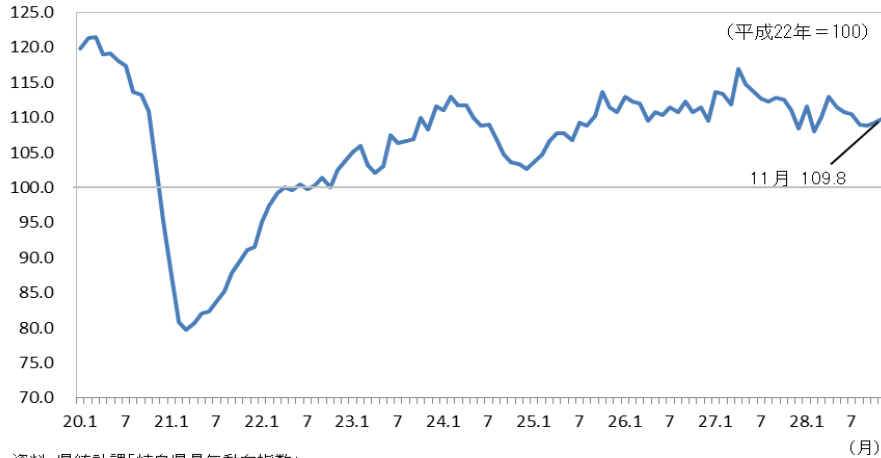
※企業等へのヒアリングは 2月22日～27日を中心に実施し、3月10日に作成。

# 景気動向

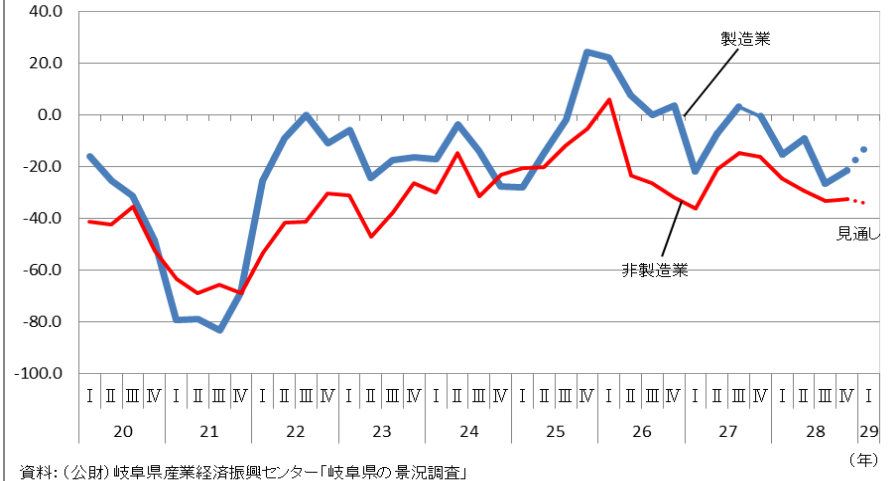
- 11月の景気動向指数(一致指数)は、109.8と前月より0.5ポイント上昇した。
- 1月の県内中小企業の景況感は、マイナス26と前月より3ポイント下降した。

- 平成28年10-12月期の売上高DIは、製造業が5.0ポイント増加、非製造業も0.5ポイントの微増となる。一方、採算DIは、製造業が3.3ポイント増加、非製造業は1.8ポイントの減少となる。

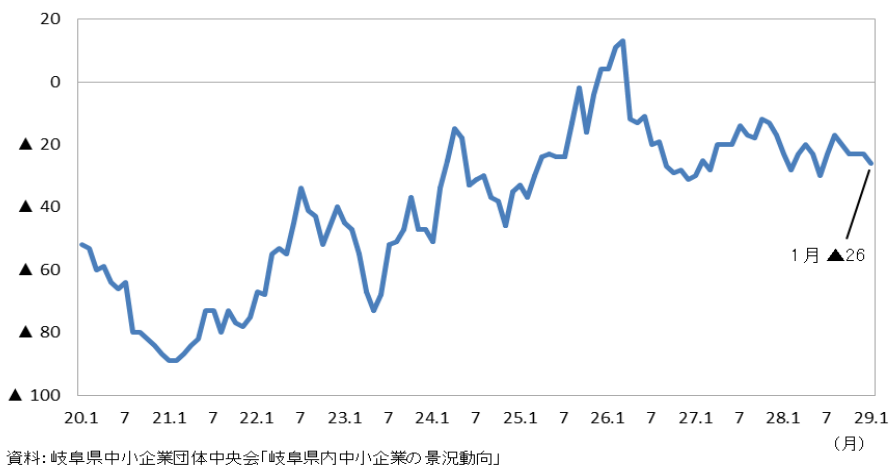
岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



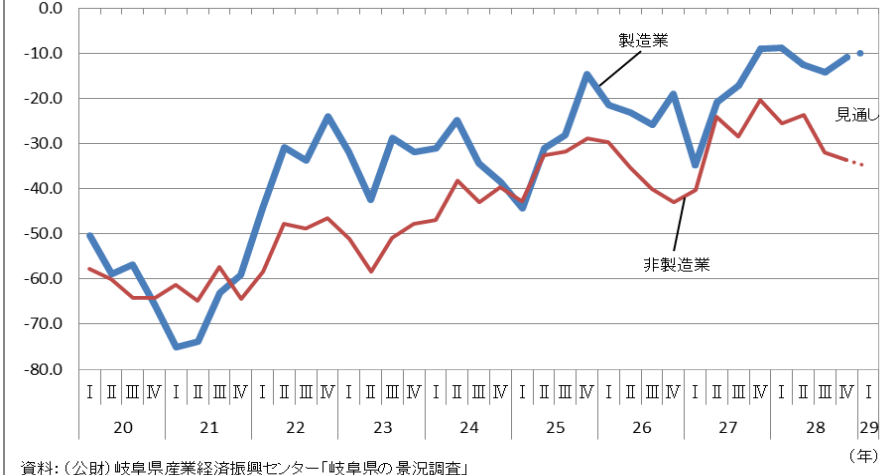
県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の採算DI(増加-減少)の推移

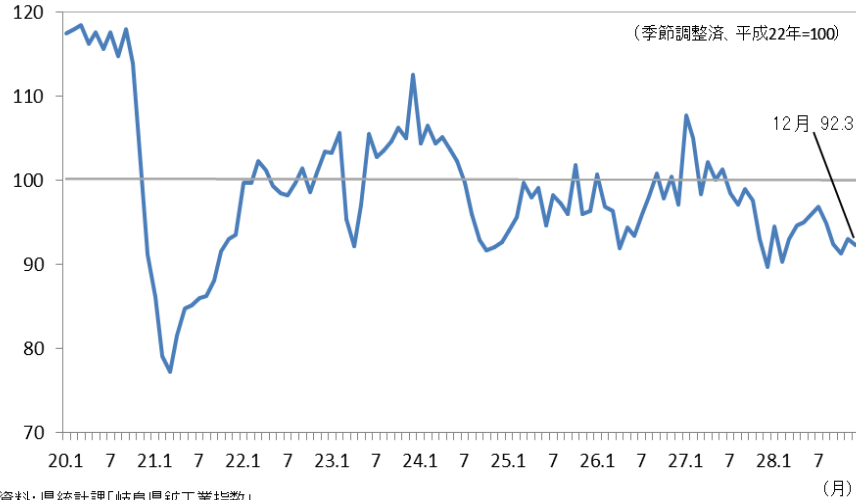


# 製造業

- 12月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、前月比0.8%減少し、92.3となる。
- 化学工業の大幅な下降がマイナス寄与し、全体としては2ヶ月ぶりに下降に転じた。

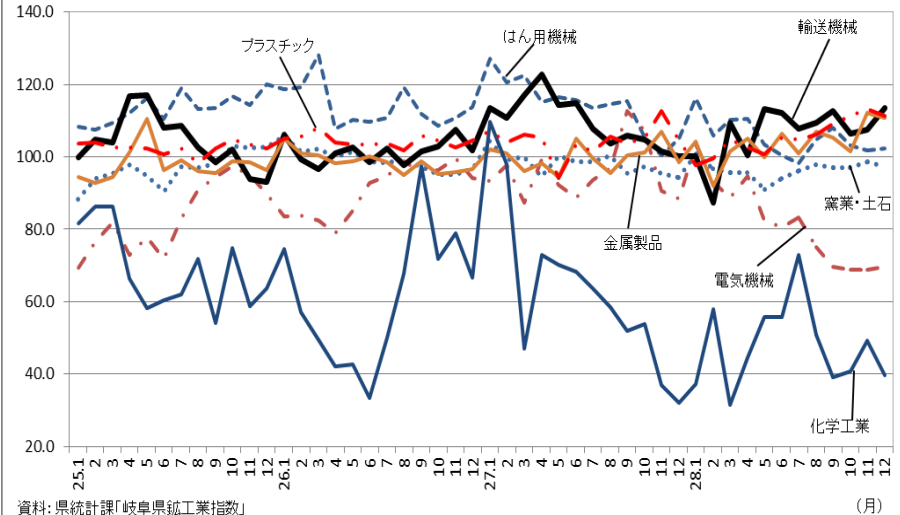
- 12月の主な産業の指数は、化学工業を除き、その他産業で前月比横ばい圏から微増で推移。
- 化学工業、電気機械を除き、その他産業は、今年度に入り、底堅い動きが見られる。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



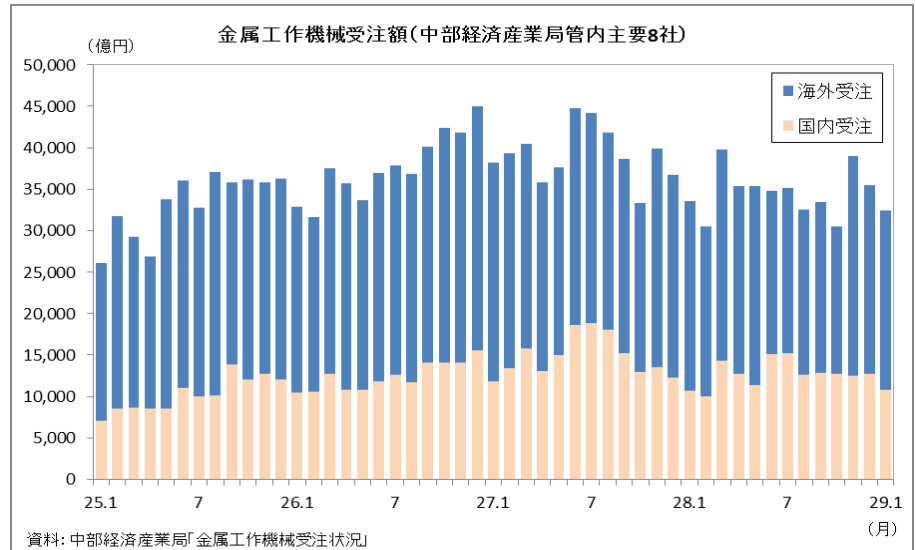
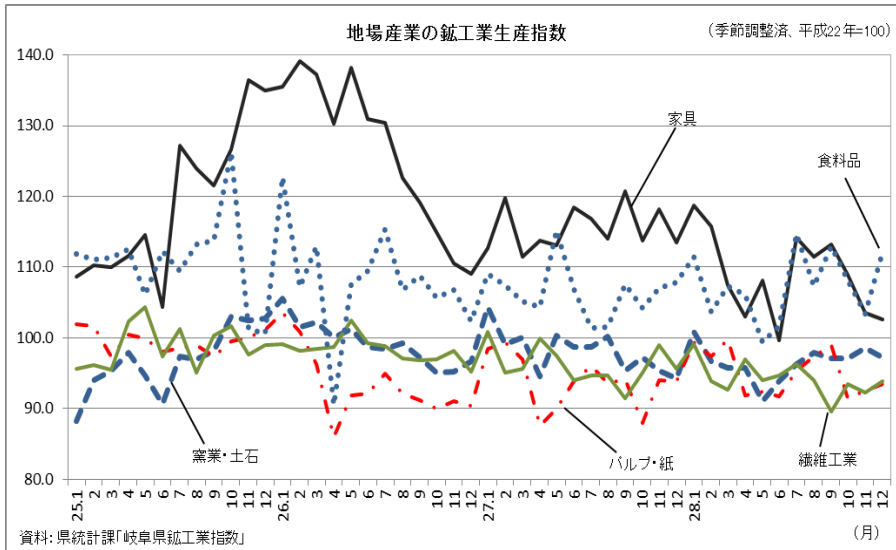
## 現場の動き

- ◆受注見込みが4月まで出ており、前年比5~10%の受注量増である。5月以降も好調が続くと予想。(輸送用機械)
- ◆売上、受注ともに増加。自動車関連はメーカーの現地生産、現地調達が加速しており、今後の部品輸出は減少する可能性がある。一方、中国向け建設機械部品の需要は高まり、輸出量の増加が続く見通しである。(生産用機械)
- ◆受注は前年比減少。昨年10月以降、若干回復の兆しがあったが、今年に入り受注は下方基調にある。(はん用機械)
- ◆生産は回復傾向。国内は主力製品のエアコンパネル、ナビ等自動車関連部品、海外はカメラ部品が増加に寄与。(電気機械)
- ◆3月以降の受注は上向き。中国向けiphoneに係る工作機械の受注が再び増加してきたことが要因。(金属機械)
- ◆売上は前月比減少。樹脂部門は液晶パネル、電子基盤部門はパソコン・スマホ向け受注が減少。(プラスチック)
- ◆売上は前月水準で横ばい。サプリメントは好調な一方、飲料製品は低調。大口案件の引き合いが多くなってきた。(食料品)

## 製造業-2

- 12月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、家具、窯業・土石が微減となるものの、その他業種は軒並み前月比上昇した。
- 昨夏以降、繊維工業は緩やかな持ち直しが見られる一方、家具は下降を続けている。

- 1月の金属工作機械受注額は、年始要因もあり、海外受注・国内受注ともに前月比減少するも、足下の受注水準は底堅い動きとなる。
- 前年同月比で見ると、受注額は3.6%の減少となり、17ヶ月連続で前年を下回る。

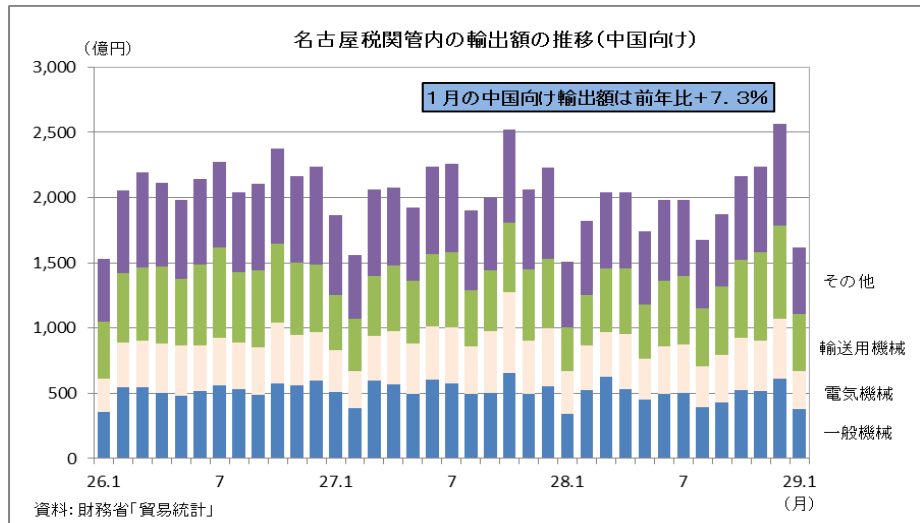
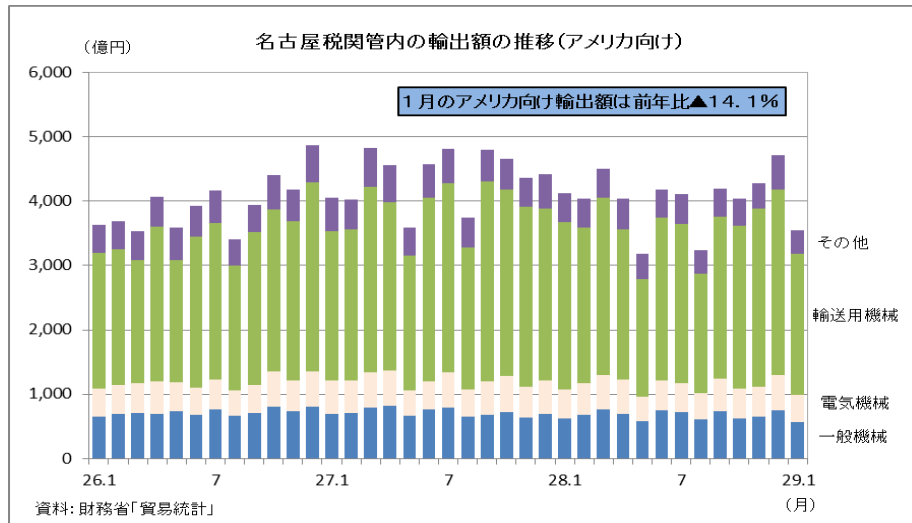
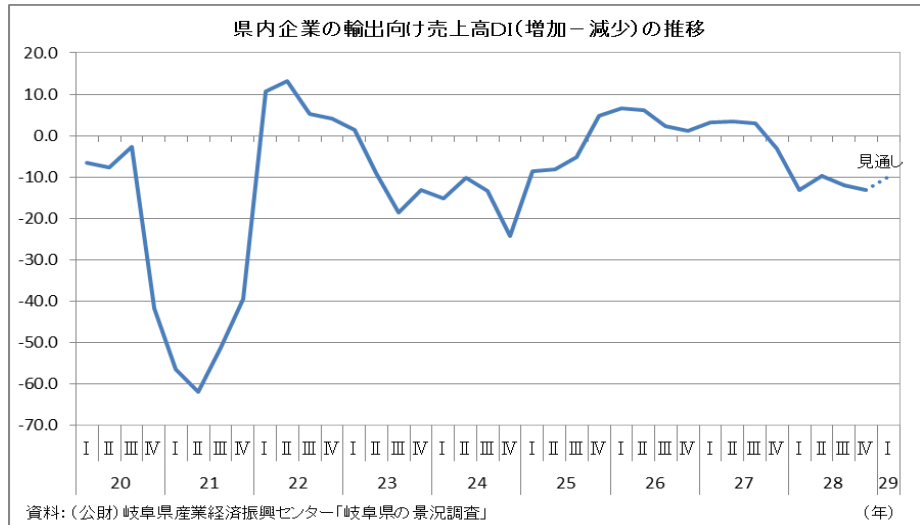
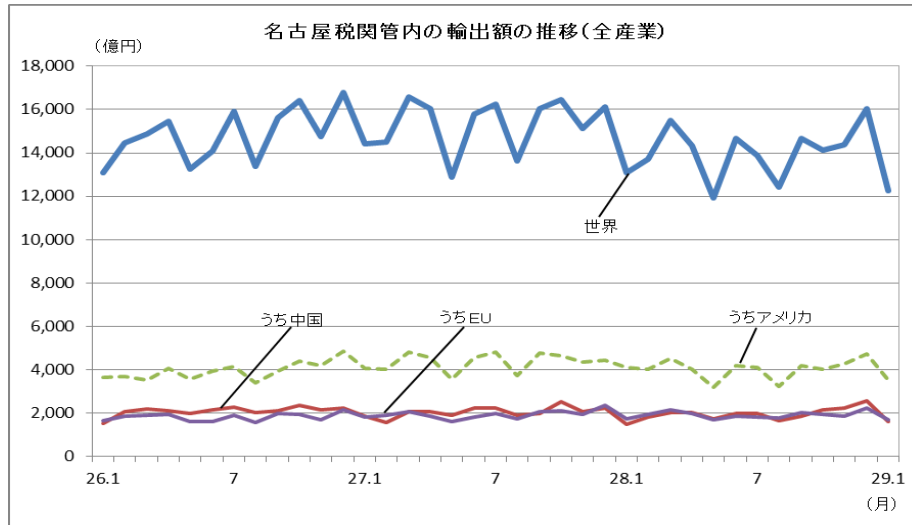


### 現場の動き

- ◆売上は前年比減少。販売価格の低下により、縫製業にしわ寄せがきており、特に縫製業の利益率が減少している。(アパレル)
- ◆タイル業界全体の需要は縮小傾向。マンション外壁の改修などは、大手が独占していたが、需要が縮小している。現在は小規模なリフォームなど、小ロットのオーダーは右肩上がりの需要がある。(陶磁器)
- ◆売上は前年比微減。受注は国内は芳しくないが、海外は2割ほど多い。(刃物)
- ◆売上、出荷は減少傾向、受注は増加傾向。特に海外展示会での受注は安定的であるが、販売実績のある製品に限定される。(紙業)
- ◆業況は前年比微増。現在、新規販路を開拓できるような商品開発や商談会等を積極的に進めている。(食品)
- ◆業況は前年が芳しくなかった為に対前年比増加しているものの、例年並み。受注に生産が追い付いていない。(木工)

# 輸 出(名古屋税関管内)

- 1月の輸出額は1兆2,255億円で、前年同月比6.4%減となり、14ヶ月連続で前年を下回る。
- うちアメリカ向けは、前月の全産業増加から一転し、全産業で減少し、前年同月比14.1%の大幅減となる。
- うち中国向けは、電気機械を除く全産業で増加し、同7.3%増と3ヶ月連続で前年を上回る。
- 県内企業の輸出向け売上高DIは、28年第1四半期に下げ止まりを見せて以降、ほぼ横ばい状態が続く。



## 為替・原油価格の動向による影響について

- ◆原材料価格、燃料価格(石油、ガス)が上昇傾向で、この傾向が続けば経営に影響がでる。(輸送機械)
- ◆燃料価格がじわじわ上昇しているが、簡単には荷主に価格転嫁できないので厳しくなっている。(運輸業)
- ◆運送業関係からの融資案件や融資額が増えてきている。(金融機関)
- ◆ツーバイ材(米材)は値上がり。欧州材は製品の不足から上がる感じ。ホワイトウッドは横ばい、ロシア材は松が千~2千円値上がり。(製材)
- ◆昨秋以降の円安基調は業績にはプラスの影響を受けている。(輸送機械、電気機械ほか)

## プレミアムフライデーへの取組み・影響について(小売業)

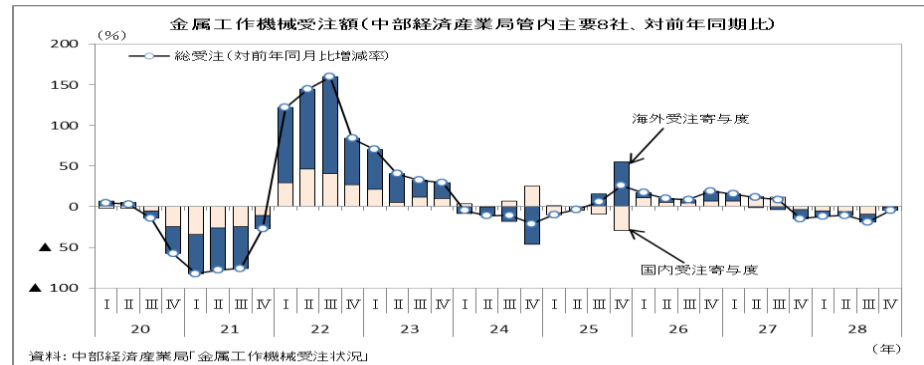
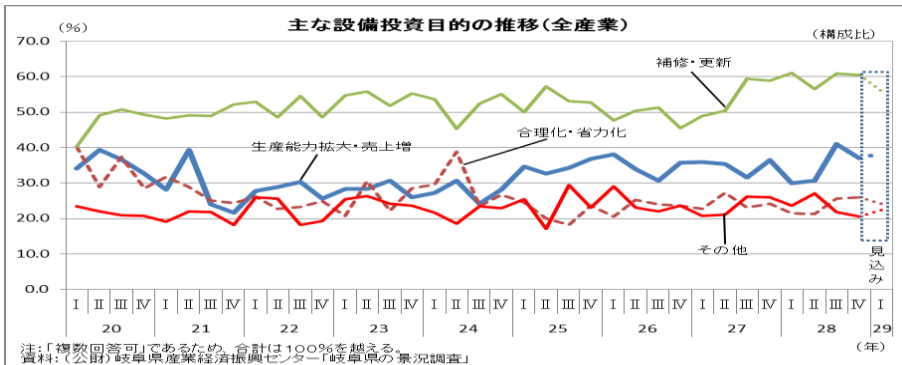
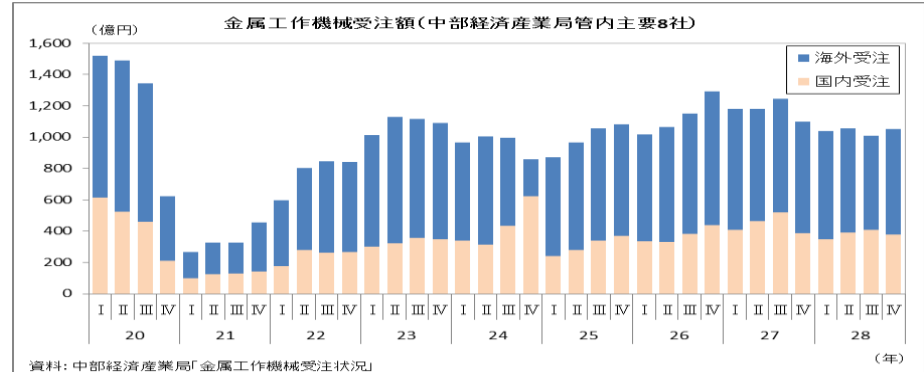
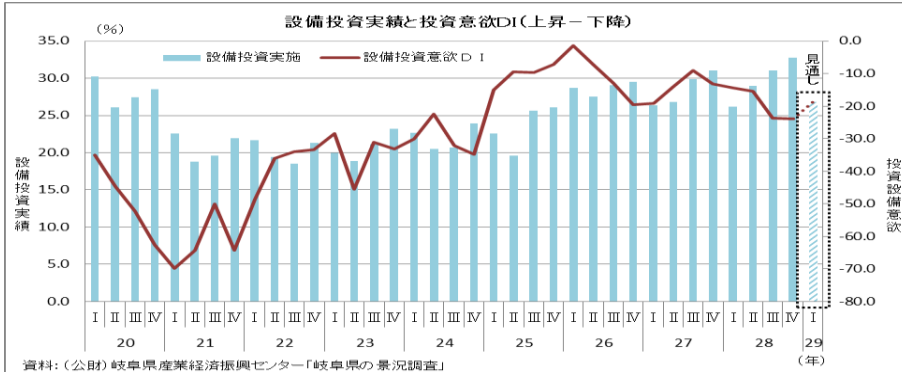
- ◆チラシや他広告媒体でPR、16時以降の割引等を開催し、集客は普段より多かった。具体的には、食料品、衣料、寝具等で値引き、子ども連れを意識したイベントを開催し、16時台の子供連れは少なく、19時台に子ども連れが多くなった。今後は年間を通じて力を入れてやっていく予定。
- ◆チラシや他広告媒体でPRし、プリカチャージ特典等を実施。集客はまだまだ浸透していないせいか、普通であった。
- ◆金曜日に加え、土日も含めた3日間で実施した。具体的には、食品値引きと抽選会を行った。また、入居する商業施設では、音楽イベントの実施、メルマガ等会員先着プレゼント、専門店でのタイムセール、値引き等で全体の2割程度の店舗が参加した。館全体の集客は、普段の金曜と比べ微増であった。4月以降、館全体としては本格稼働を予定しており、入居するテナントは様子見している店舗が大半である。

## 業界トピックス・トレンドについて

- ◆トヨタ系企業が下請法に該当する中小企業に対しては手形決済を廃止し、現金での支払いを行うことを表明した。(輸送用機械)
- ◆労働環境の改善策の一つとして、(車両輸送から)鉄道輸送へのシフトも進めている。荷主によっては、Co2削減の観点から鉄道輸送を希望されるところも出てきており、今後とも積極的に推進していく。(運送業)
- ◆先日開催の健康博覧会では、えごま、チアシード、キヌアなどを始めとしたスーパーフード市場への参入模索を検討している企業が多く、更なる市場拡大が期待されている。(食料品製造)
- ◆今春以降、鉄やステンレスといった原材料価格が高騰する見込み。
- ◆補助金で海外の展示会に出ているが、海外は“関ブランド”で売っていく。(以上、刃物)
- ◆展示会での和紙アクセサリーの注目度が高い。販売店での評価も良く、受注も上向き。本美濃紙製品の本命となっている。(紙業)
- ◆人気家電の発売に伴う問合せ、予約が多くなっている。また、歪みの少ない拡大鏡がバレンタイン商戦で人気があった。(家電)

# 設備投資

- 平成28年10－12月期の設備投資実績は3期連続して増加した。目的別では、「生産能力拡大・売上増」が前期比減少、「合理化・省力化」、「補修・更新」はほぼ横ばい状況にある。
- 平成28年10－12月期の金属工作機械受注額は、国内・海外受注ともに減少し、前年同期比4.6%の減少となり、5期連続で前年を下回るものの、受注額は底堅さを見せはじめている。



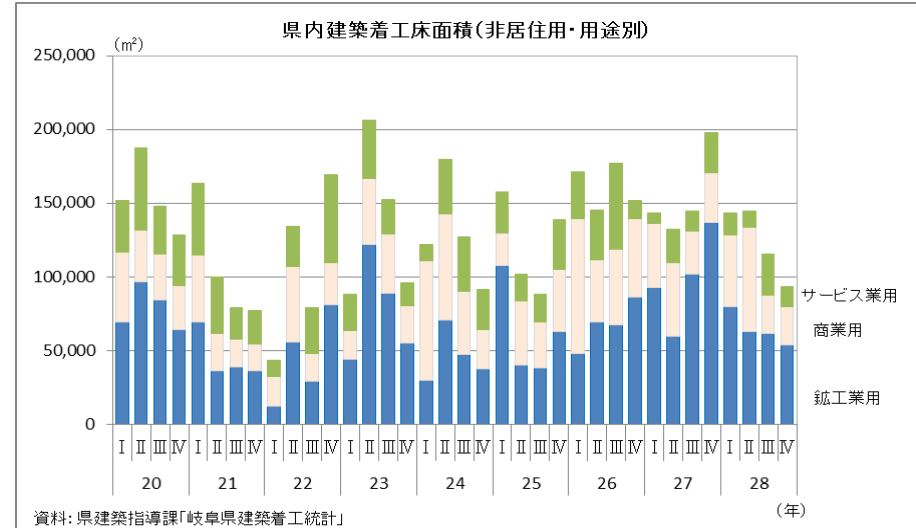
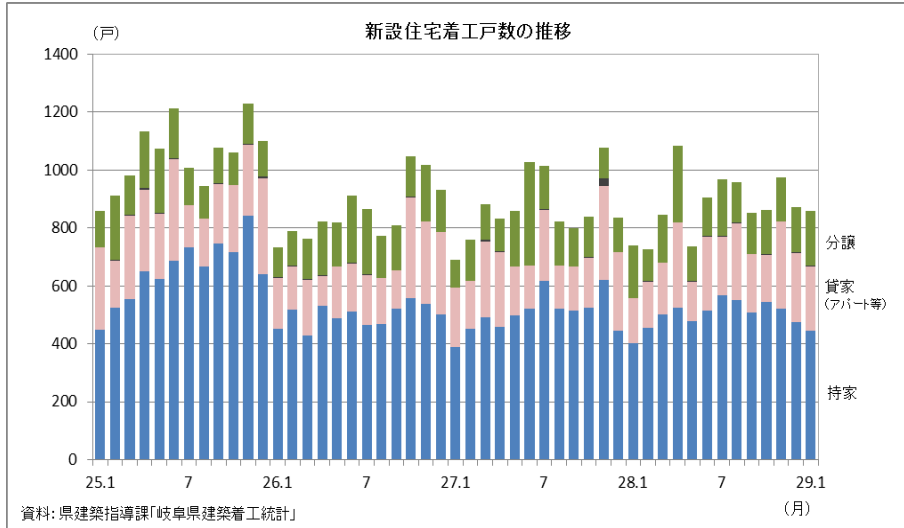
## 現場の動き

- ◆瑞浪市に新工場建設予定。岐阜県企業立地促進事業補助金を活用したいと考えており、近日中に県に相談予定。
- ◆来期は溶解炉、エアコン等の設備投資を予定しており、省エネ補助金の申請を検討している。(以上、輸送用機械)
- ◆省人化への取組みとして包装機の増設を継続。今後のロボット導入についても積極的に取り組んでいる。(食料品)
- ◆断裁、検品、包装の工程において、人に頼らない機械自動化を強力に進めている。(紙業)
- ◆現工場の隣地を購入済。今後、小規模ロットに対応した窯を購入し、発注者ニーズに幅広く対応していく予定。(陶磁器)

# 住宅・建築投資

○1月の住宅着工戸数は、分譲が増加となるも、持家、貸家の減少により、全体では前月比1.6%と僅かながら減少となる。また、前年同月比でみると、貸家が42.9%の大幅増を筆頭に全種別で増加し、全体では15.9%増となる。

○平成28年10-12月期の建築着工床面積は、鉱工業用がマイナス寄与し、全体では前年同期比52.8%減となる。  
○直近5年でみると、平成27年第4四半期をピークとして減少傾向が続いている。



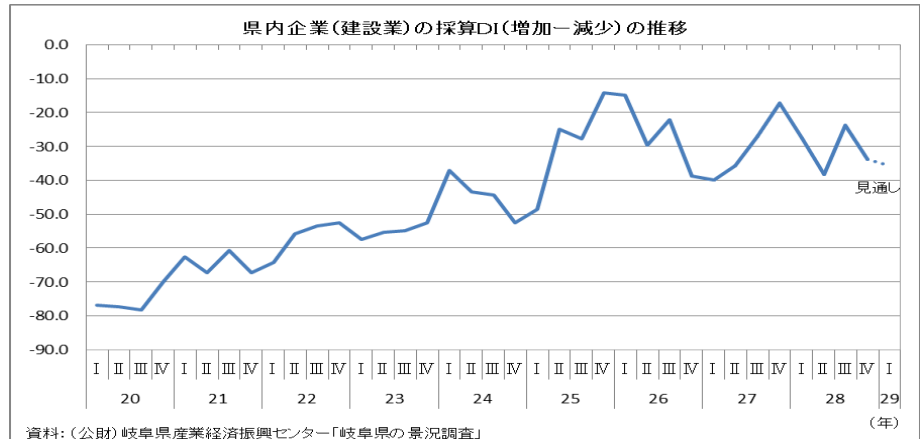
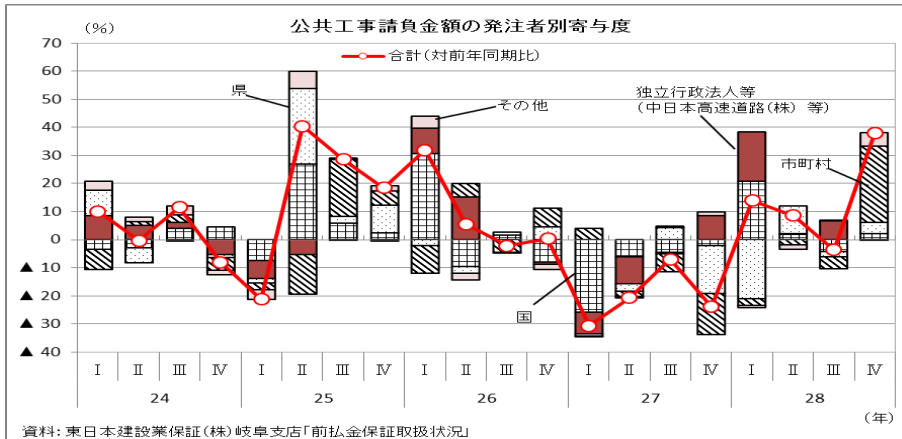
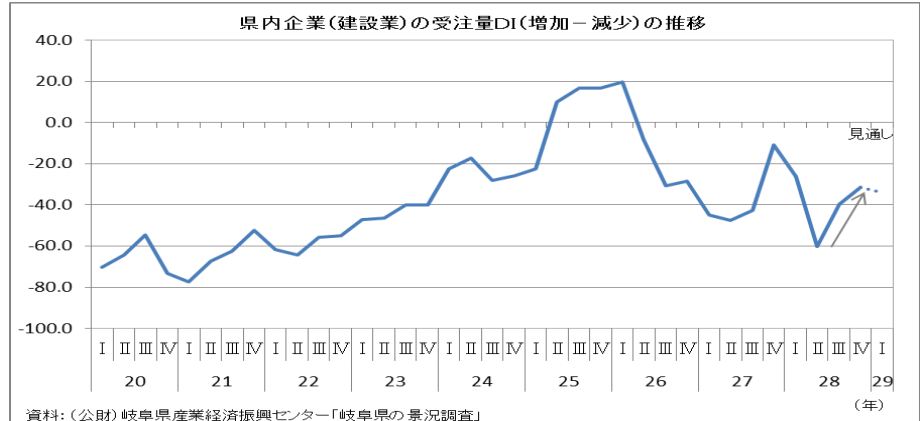
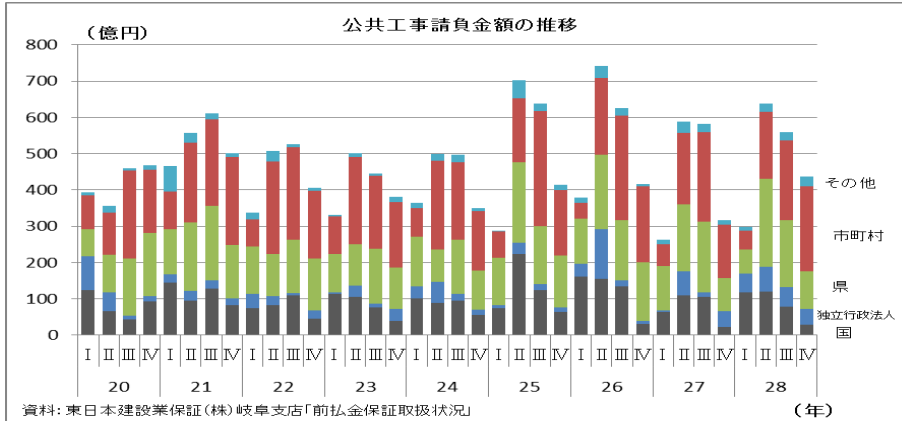
## 現場の動き

- ◆受注は前年同月比横ばい。集客状況も例年並みであるが、少しずつであるが客が動き出しているように感じる。
- ◆先月に続き、繁忙である。年度末納期となる家具や什器の製作があり、瞬間的に人手不足感がある。(以上、住宅関連)
- ◆中京地域では、並材は不足気味で価格は横ばい。合板は供給が改善しつつあり、厚物の価格は若干上昇。(製材・住宅)
- ◆業況は横ばい。仕事のある工務店とない工務店との格差が大きくなっている。(製材)
- ◆プレカットは大型受注があり、手刻み下降があることから2シフトで対応中であり、年度内は繁忙である。(木材市場)
- ◆原木のストック量は、ほとんどない状況。降雪の影響により、出材は低調、原木は品薄状態となっている。
- ◆原木価格は、スギ、ヒノキともに先月比で横ばい。A材の需要は良好、B材(合板用)の需要は旺盛であるが、出材不足、C・D材の需要は先月並みで良好であるが、価格は弱含みで推移。(以上、森林組合)



# 公共工事

- 平成28年10－12月期の公共工事請負金額は、市町村が前年同期比で約6割増と牽引し、国や県も同2桁増の大幅増となるなど、全体では37.9%増となり2期ぶりに前年を上回った。
- 平成28年10－12月期は受注量DIは2期連続で上昇、一方採算DIは下降に転じた。

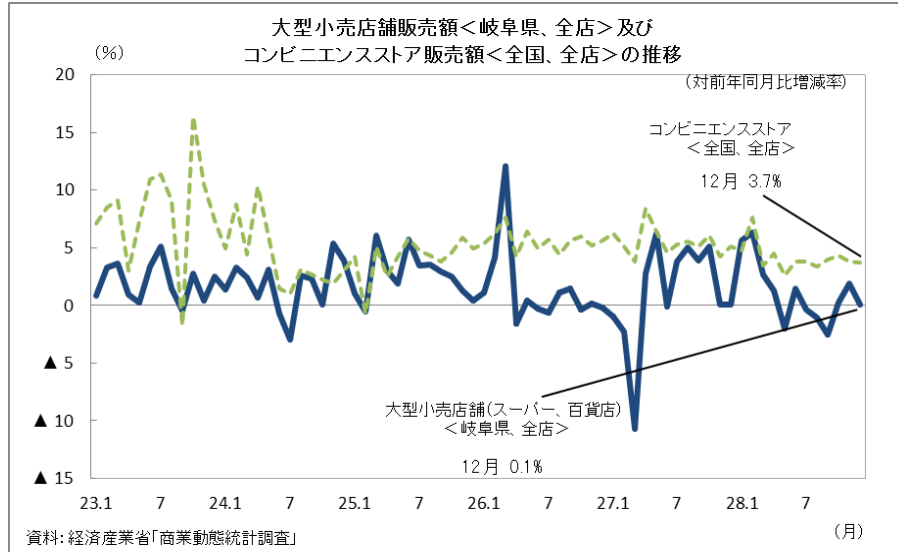


## 現場の動き

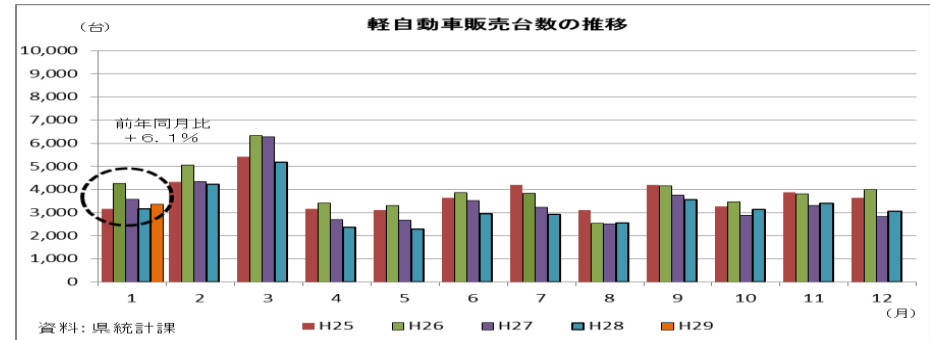
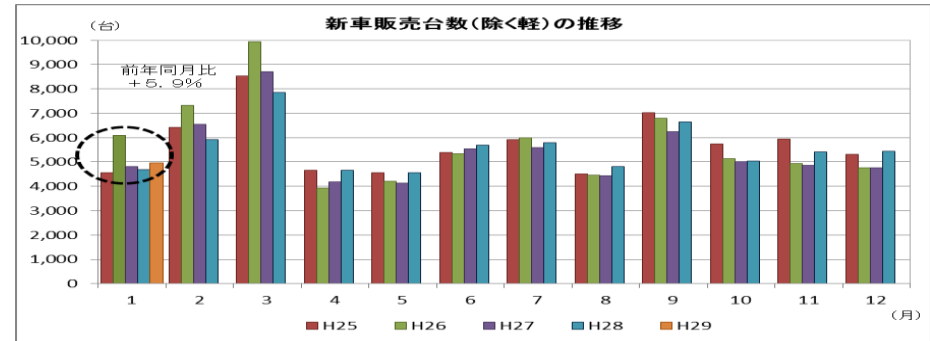
- ◆業況は県、国発注工事に関わらず、前年並み水準。
- ◆年度末工事が順次終わってきており、技術者の手が空きつつある。(以上、建設業者)

# 個人消費(流通・小売)

- 12月の大型小売店販売額は、前年同月比0.1%増と3ヶ月連続プラスを堅持した。
- 販売額の増減率は、コンビニがプラス圏で安定推移する一方、大型小売店は上げ下げを繰り返している。



- 1月の新車販売(除く軽)は、前年同月比5.9%増となり10ヶ月連続の増加となる。軽自動車は、同6.1%増と4ヶ月連続の増加となる。



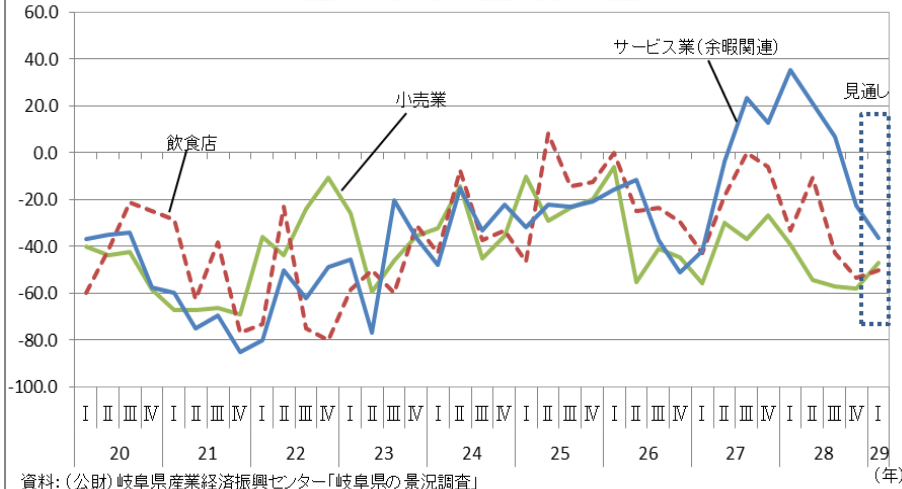
## 現場の動き

- ◆売上は前年比横ばい。食料品は微増、衣料品は減。入学・卒業シーズンのフォーマルウェアの買い控えが顕著である。
- ◆売上および客数は前年同月比減少するも、リニューアルによる一部店舗の閉鎖を加味すると健闘している。新車受注は同108%、サービスは103%、映画はヒット作効果の衰退により同91%となる。(以上、大型商業施設)
- ◆売上は前年同月比105%、客数は同102%、客単価は103%。多少高額であっても、地元のものを購入する傾向があるため、地産地消の取組みを実施している。(小売スーパー)
- ◆売上は前年同月比横ばい、客数は同95%、客単価は横ばい。以前は新生活に向けた家電を一式購入する傾向があったが、2~3年前から一式売りから単品売りになりつつあり、今年もその傾向が強く出ている。(家電)
- ◆売上は前年同月比横ばい。貨物種別では、アパレル関係は低調、自動車・航空機関連は増加傾向にある。(運輸)

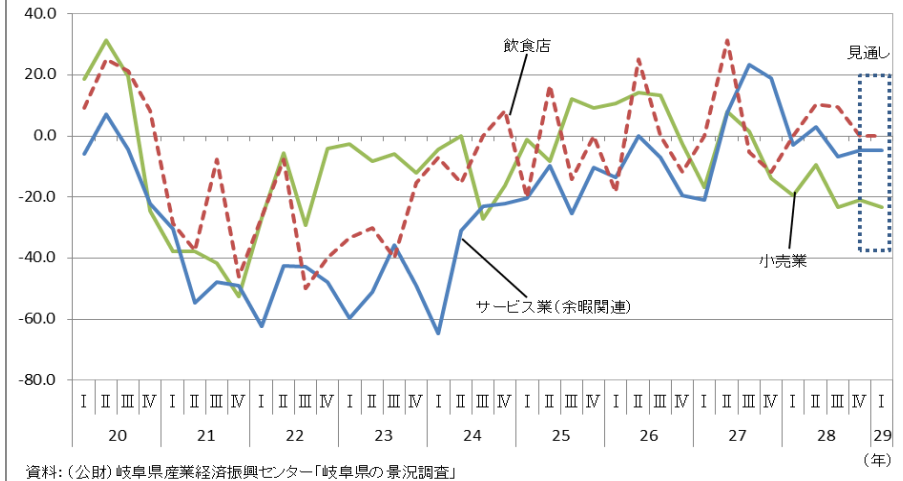
## 個人消費(流通・小売)ー2

○平成28年10ー12月期の売上高DIは、飲食店、小売業、サービス業(余暇関連)ともに減少した。特に飲食店、サービス業の落ち込みが顕著で直近5ヶ年で最も低い水準となる。販売価格DIは小売業、サービス業(余暇関連)は微増となる一方で、飲食店の減少が目立った。

県内企業の売上高DI(増加ー減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇ー下降)の推移



### 現場の動き

- ◆入館者数および館全体の売上は、昨年がうるう年であったこともあり、前年同月比若干下回る。
- ◆生鮮食料品スーパー、物販、サービスの既存店はフェアの実施により、堅調に推移。(以上、アクティブG)
- ◆婦人服店の売上は前年同月比95%。2月は寒かったり、暖かかったりと、衣料品は購入せず様子見という感じであった。
- ◆飲食店の売上は同85%。近隣で昨年1店開店、3月にも1店開店するので、今後に期待している。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆和菓子店の売上は前年同月比98%。昨年より営業日数が1日少なかったことが要因である。
- ◆婦人服店の売上は同100%。2月はイベントがなく、人通りが少なかった。(以上、大垣市商店街)
- ◆滋賀大学の学生が彦根商店街のインバウンド対策検討の為、先進地である当商店街を視察、店舗ヒアリングを実施した。
- ◆売上は、陶器・土産店が前年同月比80%、衣料品店が同108%。(以上、高山市商店街)
- ◆子供服店の売上は前年同月比100%。天候(寒かったり、暖かかったり)の影響で、冬物と春物がまちまち。
- ◆酒類販売店の売上は同100%。2月上旬は苦戦。中旬以降は店舗および飲食店ともに良かった。(以上、多治見市商店街)

# 観光

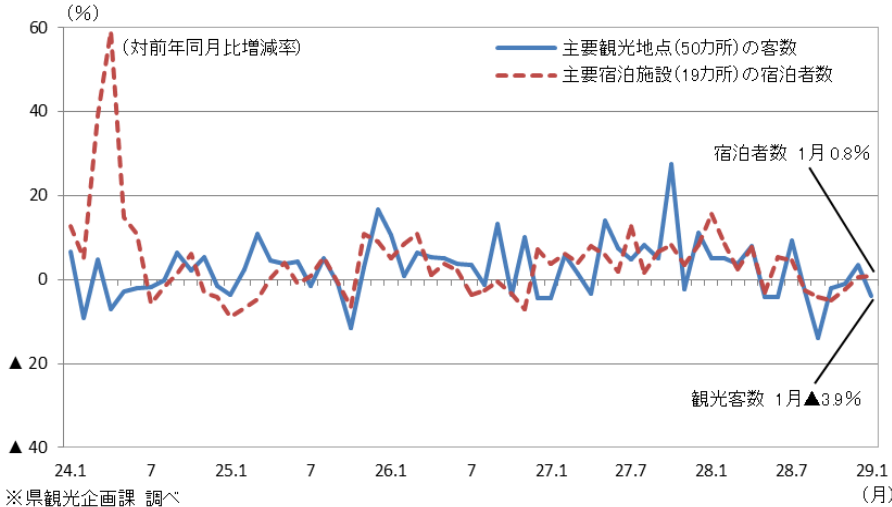
○1月の主要観光地における観光客数は、前年同月比3.9%減と2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。

○主要宿泊施設における宿泊者数は同0.8%増と2ヶ月連続で前年を上回った。

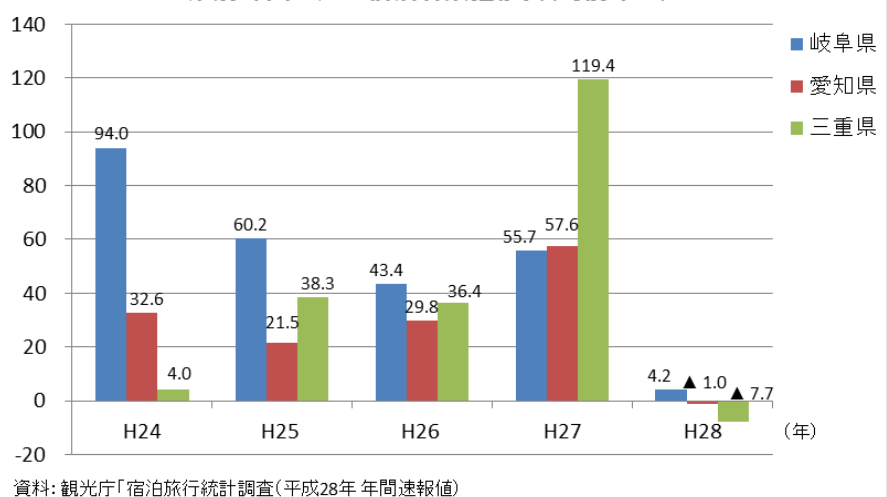
○平成28年の外国人延べ宿泊者数は、前年比4.2%増に留まり、対前年伸び率の鈍化が著しい。

○東海3県で見ると、他2県が前年比マイナスに転じるなか、プラス成長を堅持した。

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



県別外国人延べ宿泊者数推移表(対前年比)

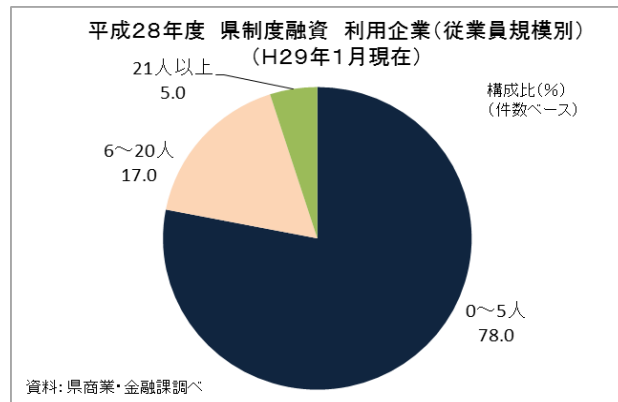
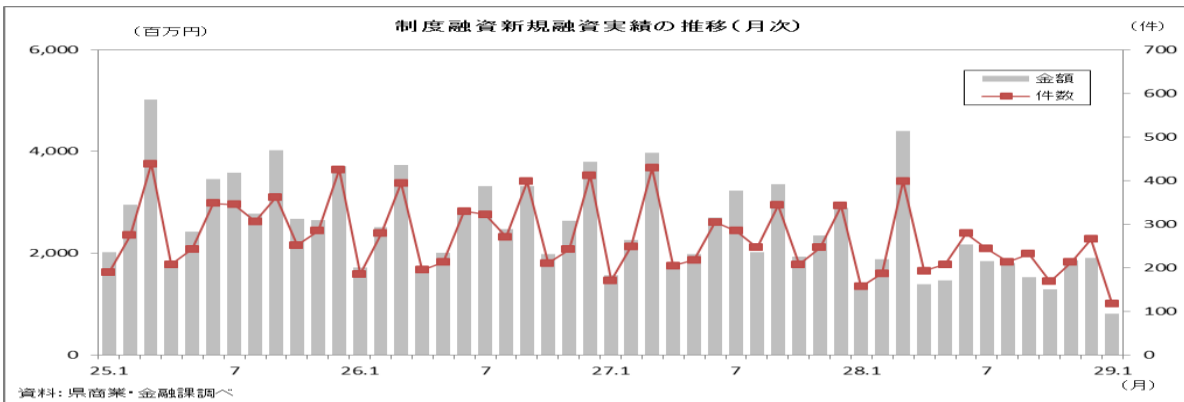
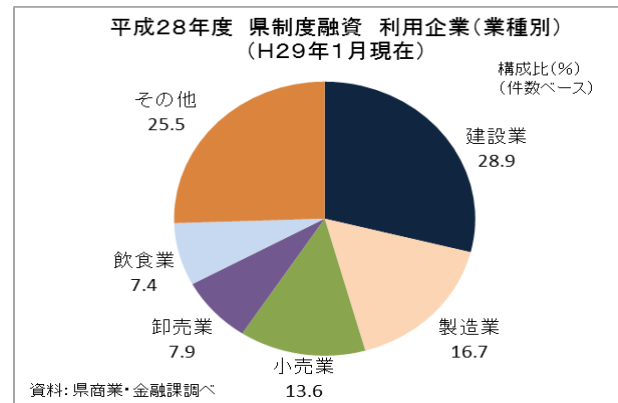
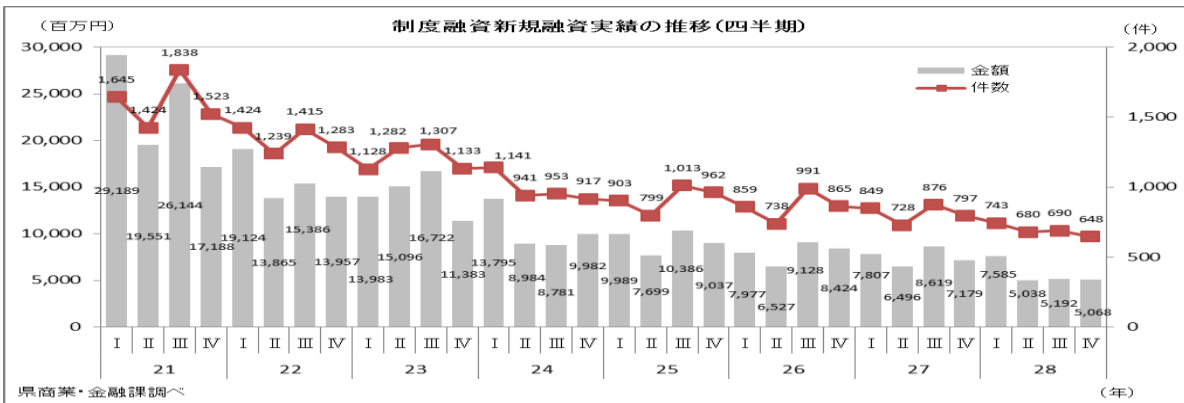


## 現場の動き

- ◆ 休日の天候に恵まれず、天候の影響を受けやすい観光地が減少となったが、宿泊施設は増加となった。(観光地・宿泊施設の総括)
- ◆ 観光バスのお客様の動きが良くない。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆ インバウンドは団体旅行から個人旅行へ旅行形態が変化している。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆ 中国・香港のお客様が前年比増。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆ 個人のお客様が増加傾向。(高山市内の宿泊施設)
- ◆ インドネシアからのお客様が増加傾向。(高山市内の宿泊施設)
- ◆ 降雪の影響を受けることなく受注ができた。(下呂市内の宿泊施設)

# 資金繰り

- 新規融資件数(四半期)は、平成28年第2四半期からほぼ横ばいで推移している。
- 1月の制度融資実績は、金額が820百万円で前年同月比36.8%減となり、10ヶ月連続して2桁減となった。また、件数も118件で同24.8%減と14ヶ月連続で減少した。
- 建設業・製造業・小売業の利用が約6割を占め、従業員5名以下の零細企業が約8割を占める。

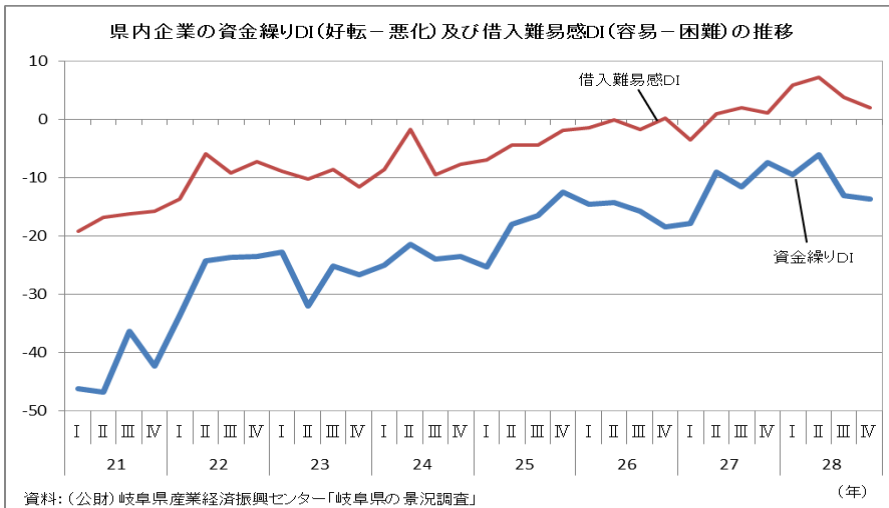
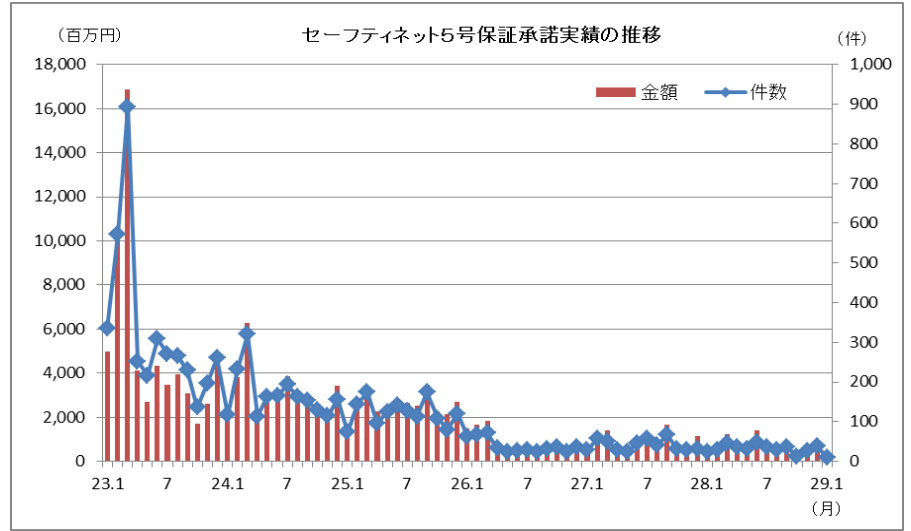
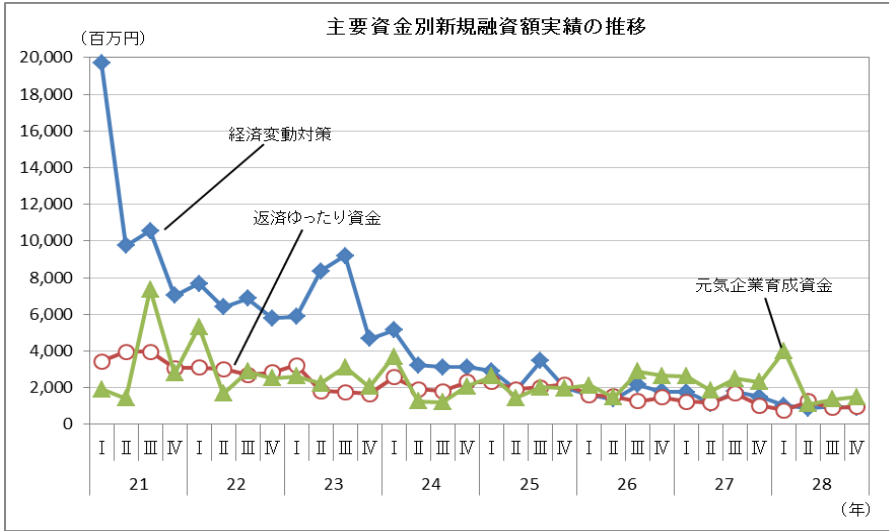


## 現場の動き

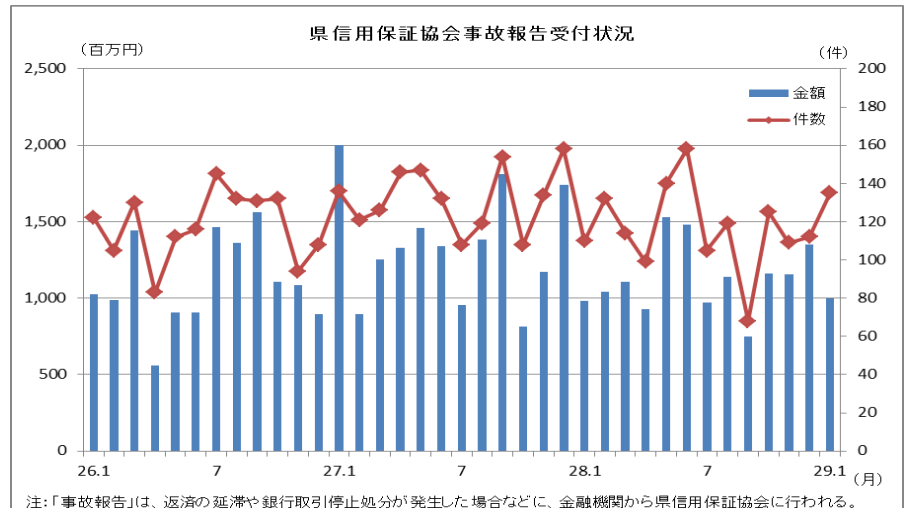
- ◆ 全体的にはほぼ横ばい状態が続いている。自動車関連で更新需要や建設業関係で案件が出始めた。(金融)
- ◆ 当社が生産を請負う場合は、会社規模の関係で下請法に該当せず、従来通り手形決済が継続される。一方、当社が元請け(下請に出す)となる場合は、下請法に該当し、今後取引にあたり現金を用意する必要が出てきた。(輸送用機械)

# 資金繰りー2

- 平成28年10－12月期の借入難易感DIは、1.9ポイント低下し、2期連続で前期を下回った。
- 平成28年10－12月期の資金繰りDIは0.7ポイント低下し、2期連続で前期を下回った。
- 事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数が135件で前年同月比+22.7%と足下増加傾向にある。金額も999百万円と同+1.5%の微増となる。



資料：(公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

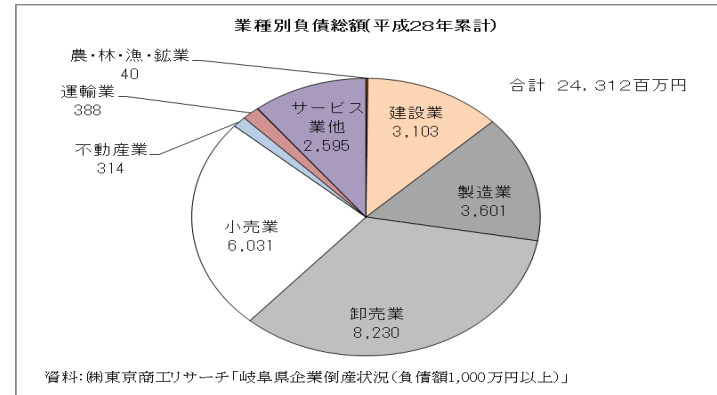
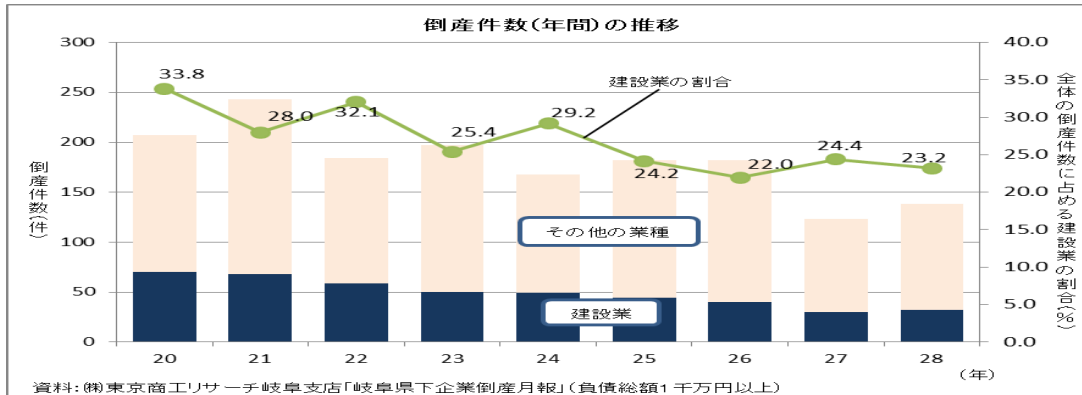
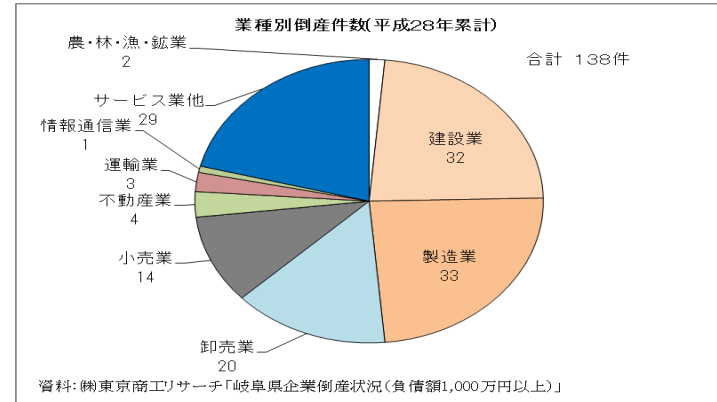
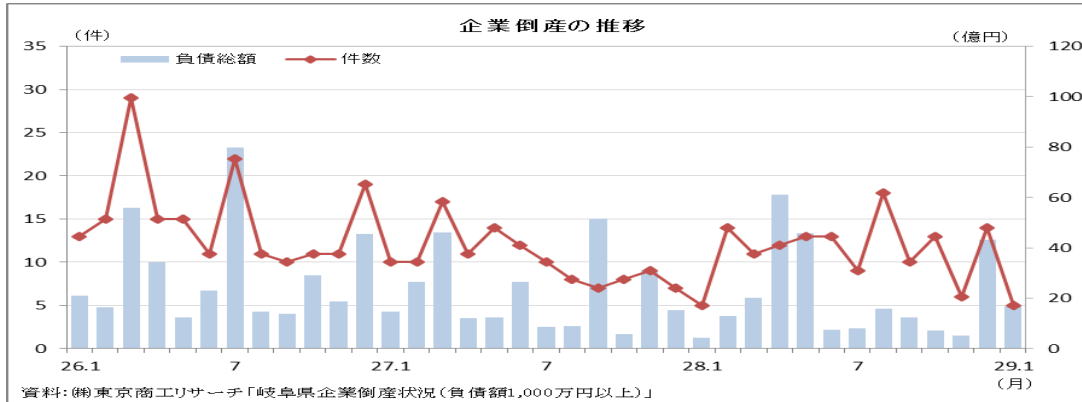


注：「事故報告」は、返済の延滞や銀行取引停止処分が発生した場合などに、金融機関から県信用保証協会に行われる。

# 倒産

○1月の倒産件数は前年同月比±0の5件、負債総額は同289.4%増の16億82百万円となる。

○建設業、製造業、卸売業で、倒産件数、負債総額ともに6割以上を占める。



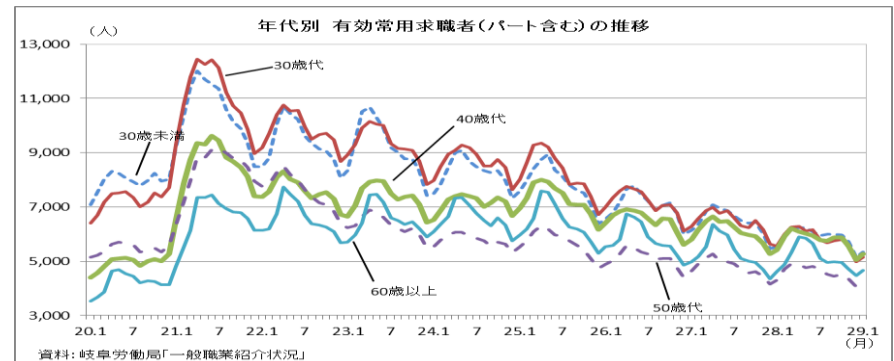
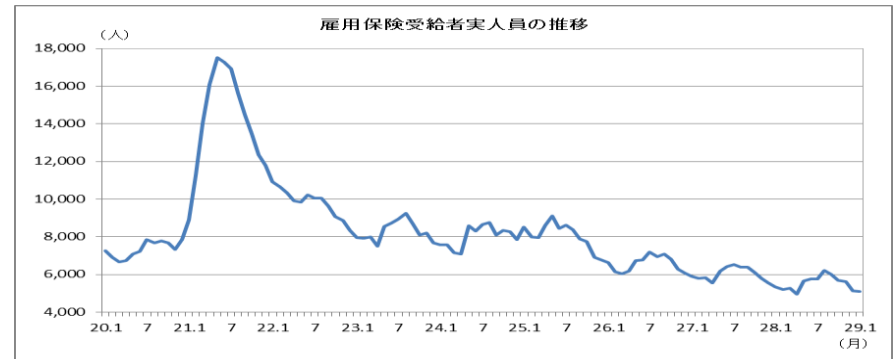
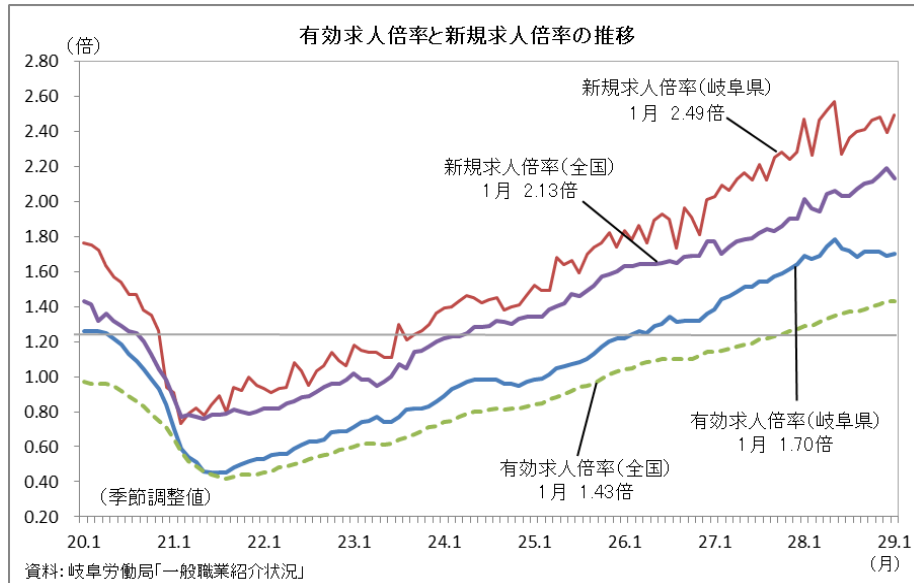
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆1月の倒産件数は5件と前年同月比同数となるものの、負債総額はゴルフ場の大口倒産(13億円)の発生により大幅増加となった。
- ◆個人消費の回復はなかなか進まない状況において、サービス業を取り巻く環境は厳しさを増すことに加え、繊維業界や建設業界においても市場回復がなかなか進まず、金融機関からの条件緩和によって何とか凌いでいる企業も多く、倒産が増勢基調を辿る可能性は捨てきれない。

# 雇用

- 1月の有効求人倍率は1.70倍と前月より0.01ポイント上昇した。
- 1月の新規求人倍率は2.49倍と前月より0.10ポイント上昇した。

- 1月の雇用保険受給者人員は前年同月比4.3%減と43ヶ月連続で前年を下回る。



## 現場の動き

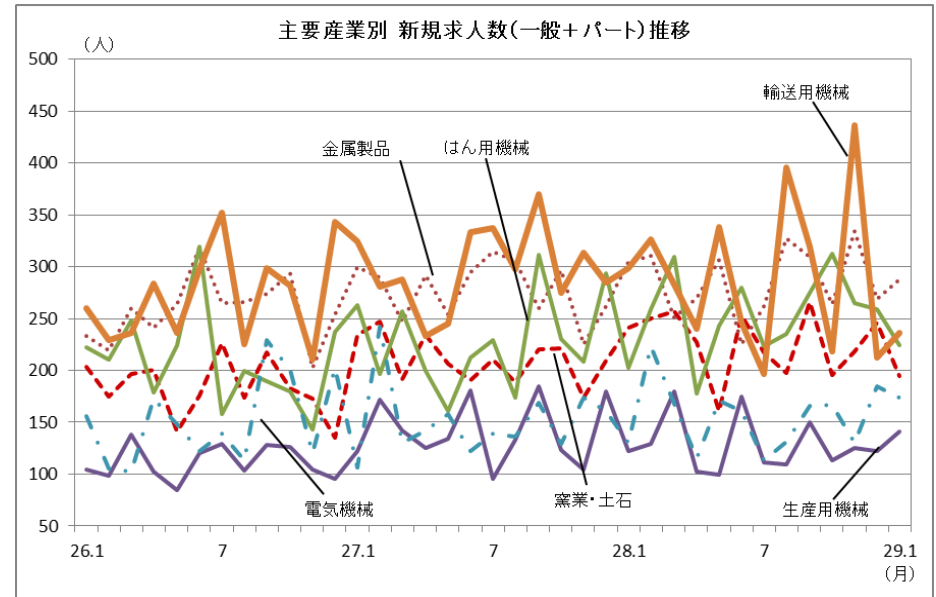
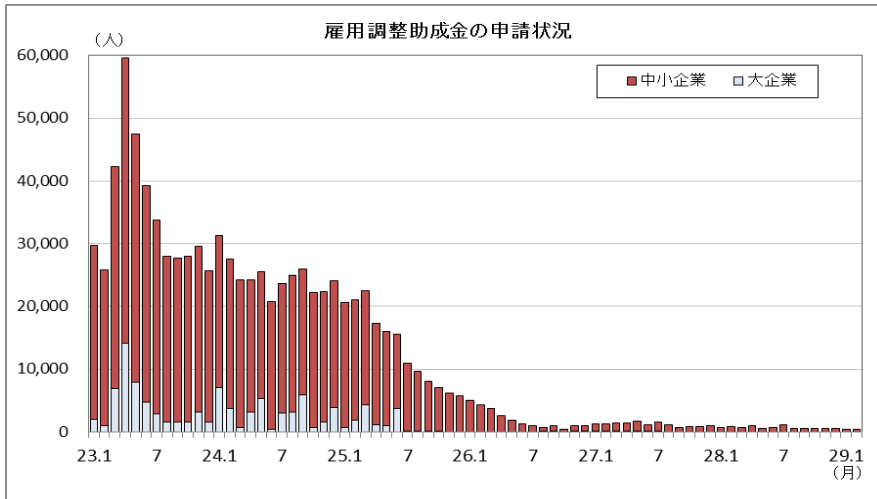
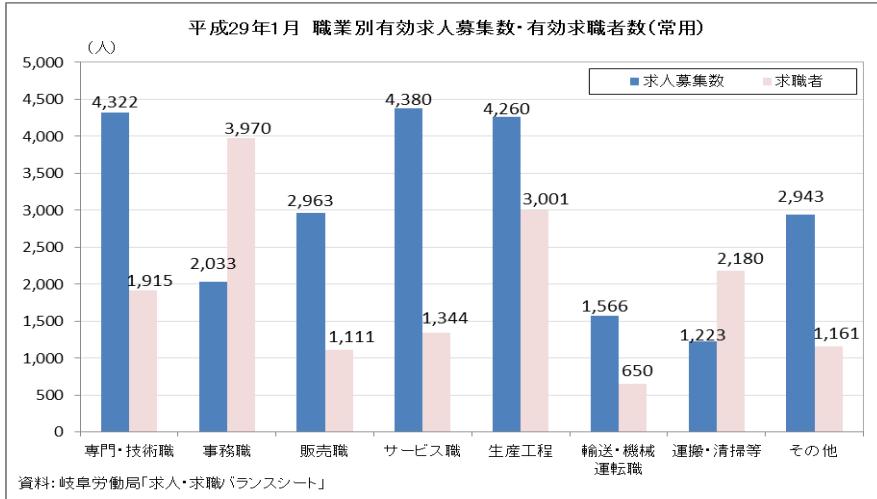
- ◆技術系職種はどこも引く手あまたなため、少しでも条件(主に給与)の良いところへ人が流れる。(輸送用機械)
- ◆今年度も大手企業優先で、中小企業の採用は厳しい状況が続くと思われ、今期外国人の採用を行った。(プラスチック)
- ◆人手不足で後継者もない。分業体制の為、淘汰された際に一工程の体制が薄くなるなど、アンバランスが生じている。(アパレル)
- ◆アクセサリ和紙製品の受注が好調であり、生産ライン増強のために海外実習生を1名増員予定。(紙業)
- ◆正社員の確保に悩んでいる出店者が散見される。アルバイト、パートスタッフの時給は上がっている。(大型商業施設)
- ◆新卒者の採用は例年並みに採用できたが、応募数は減少している。賃上げについても、国の方針に従い、上げざるを得ない状況になってきている。(建設業)
- ◆小売業、介護関係、建設業関係など一部の業種で慢性的に人手不足の声が聞かれる。(金融機関)



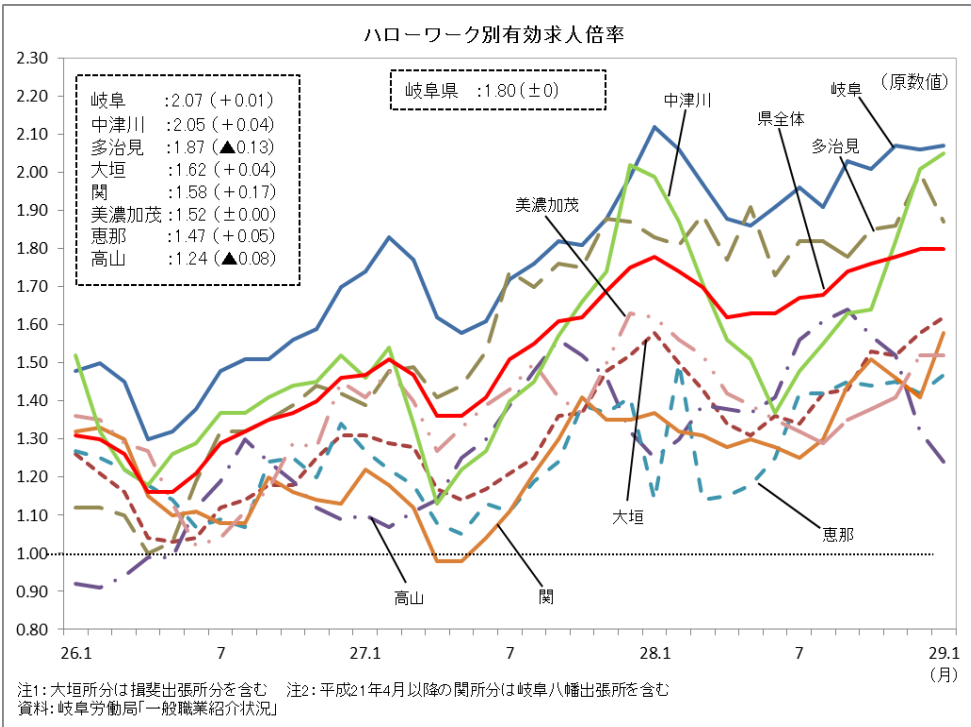
# 雇 用(職業別)

- 「事務職」および「運搬・清掃等職」の求人倍率は0.5%程度となるなど、依然として求人募集数に対する求職者数のギャップが大きい。
- 雇用調整助成金は東日本大震災直後に急増したが、足下、月400人前後で推移。

- 1月の主要産業における新規求人数は、前年同月比、電気機械を筆頭にはん用・生産機械が2桁増となる一方、輸送用機械、窯業・土石は各々2桁減となり、業種により明暗を大きく分けた。
- 前月比で見ると、輸送用機械、生産用機械、金属製品が増加に転じる一方、窯業・土石、はん用機械の減少が目立った。



# 雇用(地域別)



○1月のハローワーク別有効求人倍率は、多治見、高山を除いては前月から横ばい  
ないし微増。足下、中津川の上昇が著しい。

**現場の動き(先月比)**

<ハローワーク岐阜>  
 ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。  
 ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>  
 ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。  
 ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク多治見>  
 ◆求人者数、求職者数はともにやや減少。  
 ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>  
 ◆求人者数、求職者数はともに増加。  
 ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク恵那>  
 ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。  
 ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク関>  
 ◆求人者数はやや増加、求職者数は増加。  
 ◆雇用保険受給者数はやや増加。

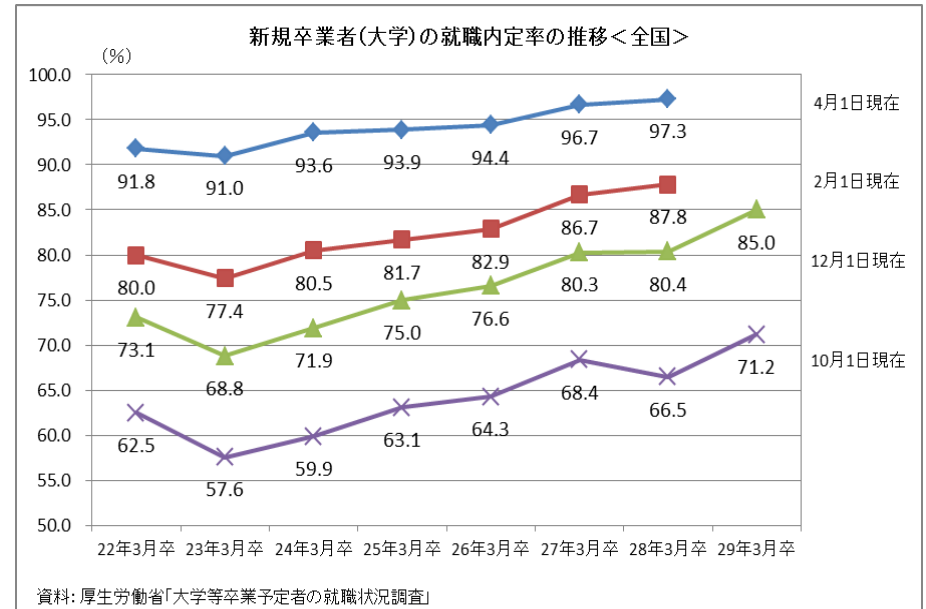
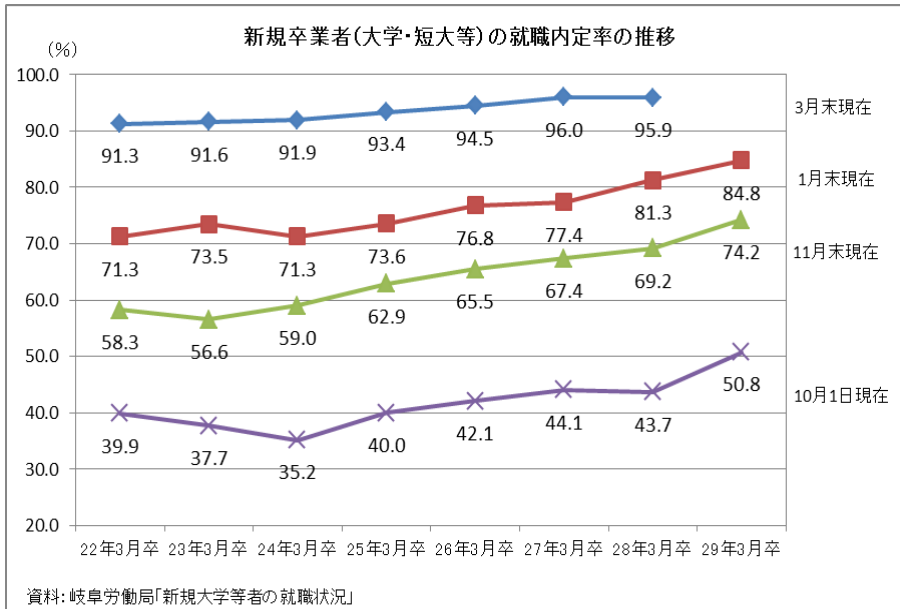
<ハローワーク美濃加茂>  
 ◆求人者数、求職者数はともに減少。  
 ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク中津川>  
 ◆求人者数は増加、求職者数はやや減少。  
 ◆雇用保険受給者数は増加。

<窓口の様子>※前月比  
 ◆高山は混んでいる。関、中津川はやや混んでいる。  
 ◆多治見、恵那はやや空いている。美濃加茂は空いている。  
 ◆岐阜、大垣は同じくらい。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○1月末時点の大学・短大卒業者(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比3.5ポイント増の84.8%となり、直近8年で最も高い内定率となる。



## 現場の動き(平成29年3月卒の内定状況等)

### 【岐阜県内の主な大学】

◆内定は、学部で85%、修士で92%程度。うち県内就職率は、学部で36%、修士で16%程度となる。

18卒の動きは、学生主体のイベントとなる学生企業展に向けた企画・準備に励んでいる。

◆内定は90%程度であり、未内定(未報告含む)者は残り20名程となる。18卒の就活状況は、学内での活動が中心。

◆内定は86%程度。2月に学内業界セミナーを開催し、130名程の3年生が参加。残りの半数の学生は、まだ就活優先でない。

### 【愛知県内の主な大学】

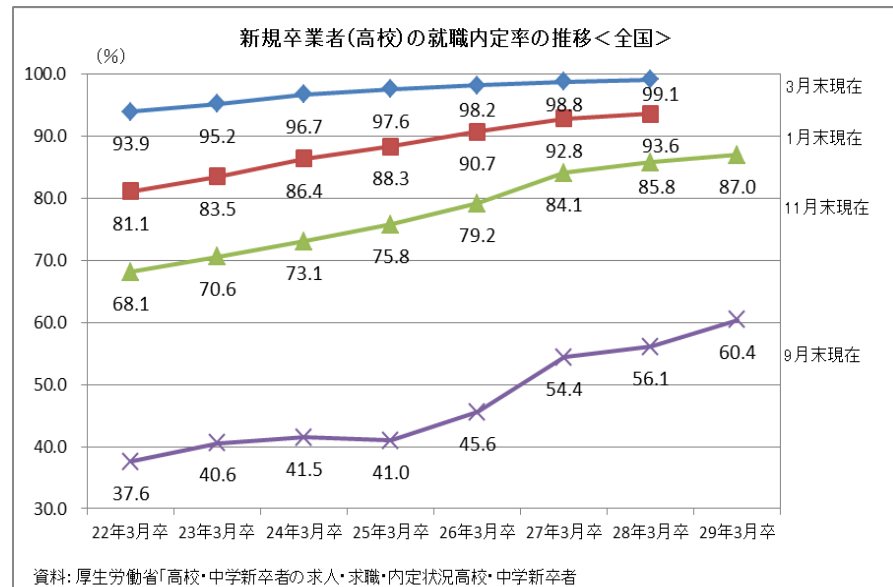
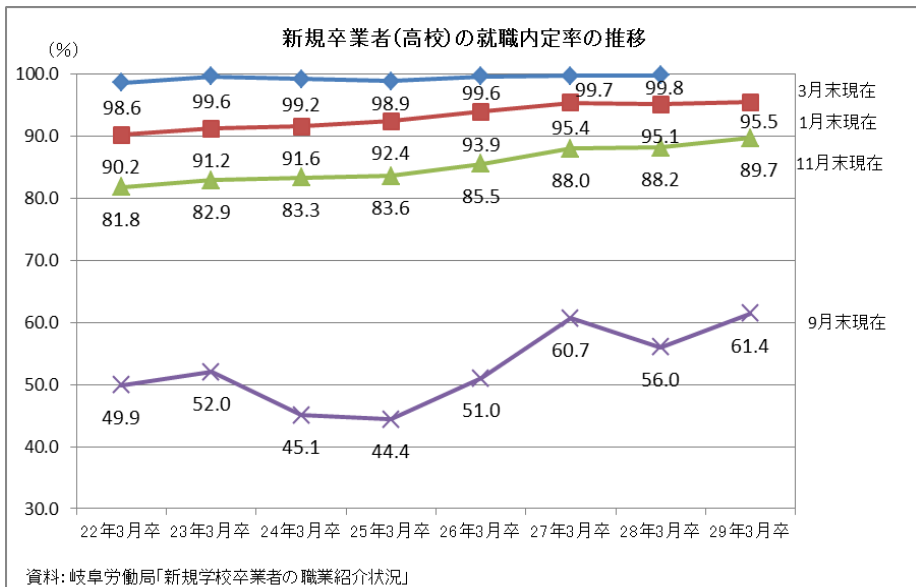
◆内定は95%程度(1月末)。18卒の学生には、3月は関連講座に加え、企業展や個別説明会等を開催予定で、約1000社が参加。

◆内定は85%程度。2月は成績開示があったため、報告に来る学生が多かった。OB・OGとの交流会を実施。

◆内定は80%程度。3月は文系・理系に分けて学内会社説明会を予定。文系は12日間・250社、理系は3日間・90社が参加予定。

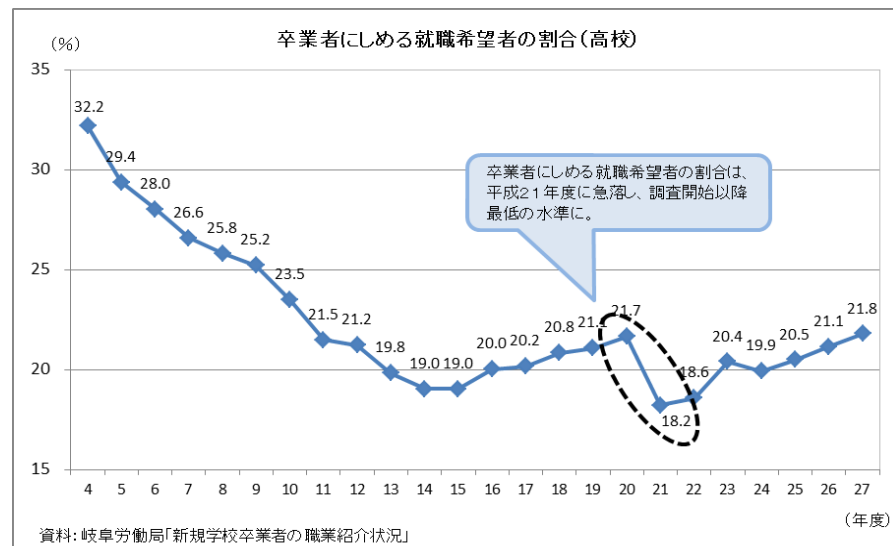
# 雇 用(高校新卒者の就職)

○1月末時点の高校卒業者(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比0.4ポイント増の95.5%となり、直近8年で最も高い内定率となる。



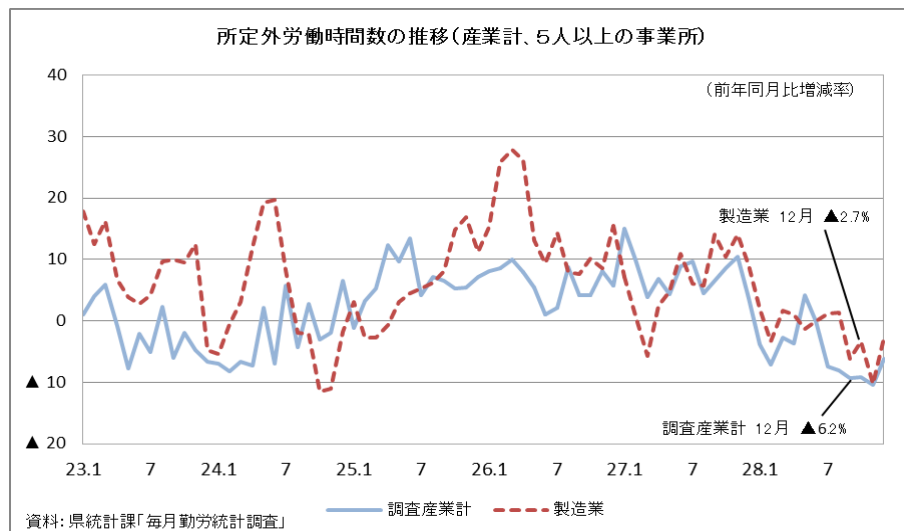
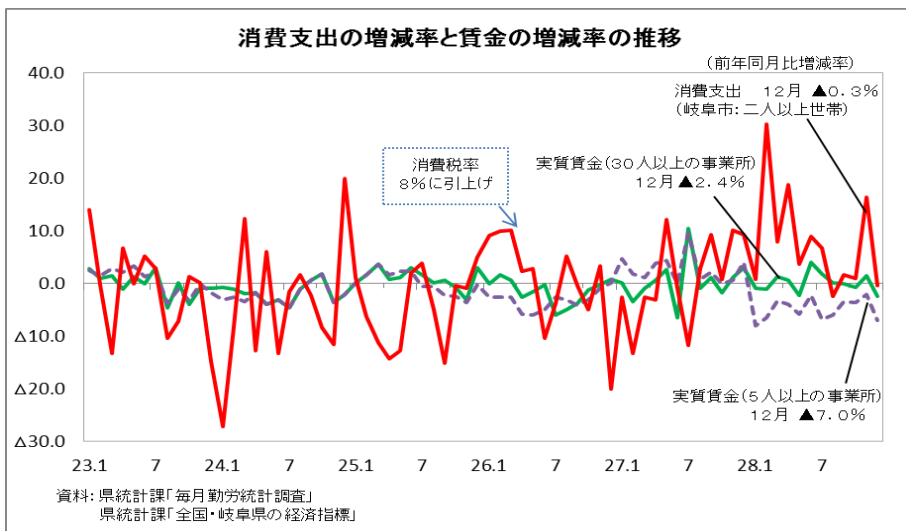
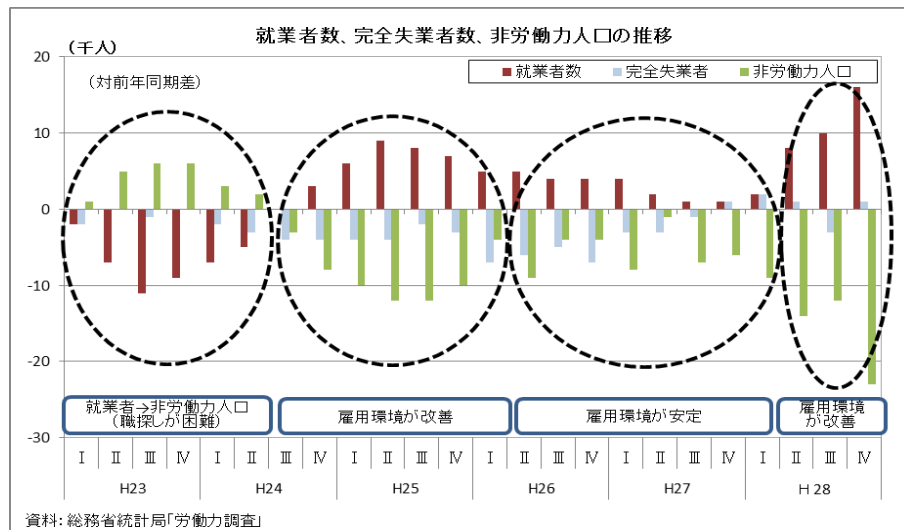
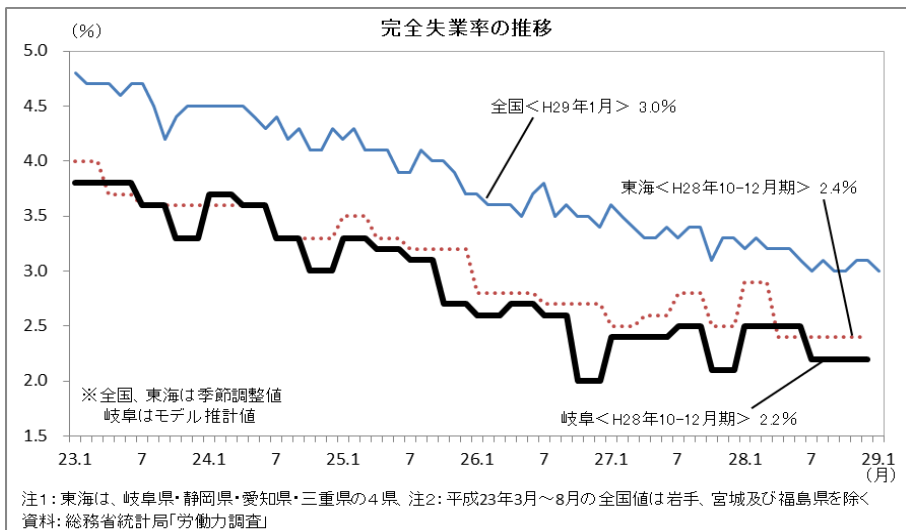
## 現場の動き(H29.3卒の求人・内定状況)

- <ハローワーク岐阜> 求人、内定はともに増加。
- <ハローワーク大垣> 求人は増加。内定は横ばい。
- <ハローワーク多治見> 求人は増加。内定は減少。
- <ハローワーク高山> 求人、内定はともに横ばい。
- <ハローワーク恵那> 求人、内定はともに横ばい。
- <ハローワーク関> 求人、内定はともに横ばい。
- <ハローワーク美濃加茂> 求人は横ばい。内定は増加。
- <ハローワーク中津川> 求人は横ばい。内定は増加。



# 雇 用(完全失業率等)

- 平成28年10－12月期の完全失業率は2.2%となり、依然として全国に比べて低い水準にある。
- 12月の賃金増減率は、事業所規模問わず前年同月比減少する一方、消費支出はほぼ横ばいとなる。
- 12月の所定外労働時間数は、製造業および調査産業全体ともに年末要因もあり、前月比で増加した。



## <経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、一部の業種で生産の弱含みが見られるものの、輸送機械（主に自動車産業）や金属製品を中心に持ち直しの動きが見られ、生産は上げ下げを繰り返しながら前年同月を上回る水準まで回復してきている。
- 地場産業は、依然として消費マインドの減退や海外製品との競合、昨秋からの円安による原材料費高騰など厳しい状況が続く中、一部に生産の持ち直しが見えはじめている。
- 為替の動きについては、昨秋以降の円安により輸出企業の多い東海圏では、製造業を中心に企業収益は減益基調から一転、業績の上振れが期待されている。また、原油価格の高騰に伴うエネルギー関連費用等の増加分を、財・サービスの価格に転嫁できていない企業が見受けられる。
- 個人消費は、大型小売店等の売上前年比増減率が足下、プラス圏で推移しており、新車販売台数についても持ち直しの動きが見えはじめている。但し、実質賃金の増加が期待できないことから節約志向が続き、長期的にみると消費回復への足取りは重い。
- 観光は、休日の天候に恵まれず、天候の影響を受けやすい観光地が減少となったが、宿泊施設は増加となった。外国人宿泊者数の伸びは、勢いに陰りが見られる。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、全国と比べても良好な数値であり、総じて県内の雇用情勢は改善している。但し、多くの業種では人手不足感が拡大しており、求職と求人のマッチングが今後の課題である。
- 企業の資金繰りは、製造業・非製造業ともに昨年年央から悪化傾向にある。借入難易感は、製造業の低下が目立つものの、全体としてはプラス圏を堅持している。